

## 東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

助けてもらった想いをつなぐ

船橋市立行田中学校

第二学年 畑 碧葉

十三年前の三月二日、僕は予期しない早産で小さく生まれ、約二カ月NICUに入院していた。なので東日本大震災が起きた時は病院にいたことになる。出産という大きな出来事に予期しない事態が重なり、母はどうやって過ごしていたのかあまり記憶にないくらいだと言う。

震災はNICUにも影響があり、水の節約のため沐浴は男の子と女の子で一日おきの交代制、おむつも未熟児用の小さなもので市販で出回っていないので交換の頻度を減らすようにといったきまりがあったらしい。

このような状態で入院がいつまで続くのか、費用はどれくらい必要になるのか、退院してもミルクやおむつは手に入るだろうか、同じような経験をしたことのある人が近くにおらず誰にも相談できないと思っていたが、病院

のスタッフの方々が親身になって話を聞いてくださり、一つ一つ解決していったと言う。

入院の費用はかなり高額になるだろうと思っていたが、自己の支出はそんなに負担にはならなかった。それは「未熟児養育医療」という制度のおかげだった。身体の発育が未熟なままで生まれ、入院を必要とする人に対して、その治療に必要な医療費が公費で一部負担される。

退院してからは、震災により放射性物質が水道水に影響を及ぼしている可能性があること発表され、量販店や自動販売機からはミネラルウォーターが消えた。市からは体の小さな乳幼児には影響が高いとして、ペットボトルの水が対象家庭に配布された。

私たちは税金を納める立場であり、時には出費になってしまふ、負担が大きいなどのマイナスを考える人もいるかもしれない。しか

し、私たちは税金によって恩恵を受ける立場でもある。例えば僕の身にも起きた思いがけない事態の時に助けてもらえるということやそういったシステムが国や自治体にきちんと連携され、必要な人々に対して迅速に対応できているということは、人々が納めた税金はしっかり役に立っているということだ。

最近、地震や、異常気象による災害が増えている。被災した人々への支援や、壊れてしまった家屋や道路を修復することにも税金は使われている。ニュースで見る悲惨な光景は、いつ、どこで、誰に起こるか予測しにくい時代となっており、テレビの向こうがわの人事ではない。税金は災害大国日本にとってお守りのようなものかもしれない。

僕が納税をする年になったら、生まれてきた時に助けられたことを思い出し、お返しできたらいいなと思う。